

本調査の目的

小牧市域における地震災害の危険性を国・県の調査結果を参考に調査・予測し、その成果を地域防災計画や今後の防災対策検討のための基礎資料等として作成することを目的とする。

想定の対象とした地震

○ 本調査では、**以下のタイプの異なる2つの地震**を想定した。

想定濃尾地震（内陸直下型地震）

断層の位置：温見断層（北西部）、根尾谷断層帯、梅原断層帯が連なったもの
（福井県東部～岐阜県美濃地方中濃）
地震の規模：マグニチュード8.0
傾斜角：90°（地表面に対して垂直の方向）
震源深さ：10km（小牧市に近い梅原断層帯の平均深さ）

南海トラフ巨大地震（海溝型地震）

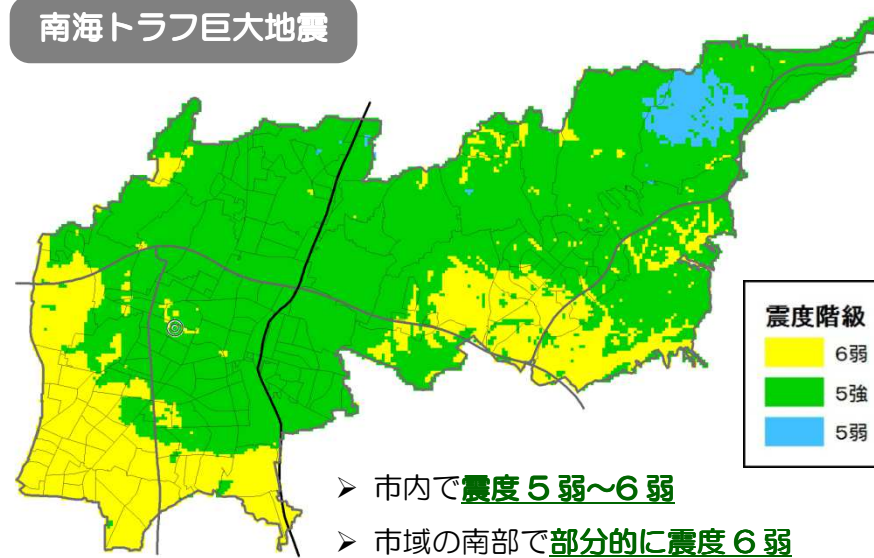
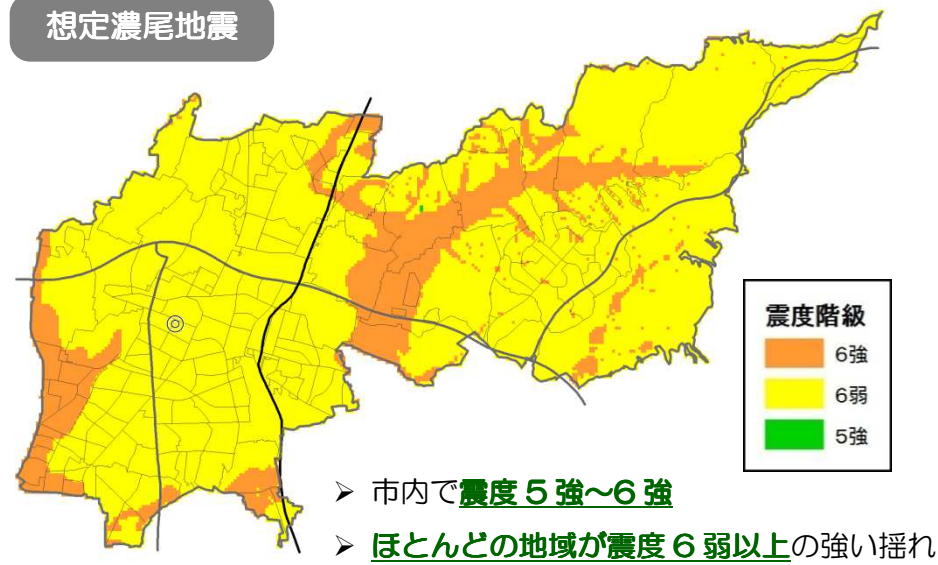
想定ケース：平成23年度～25年度愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査における、「理論上最大想定モデル」の「陸側ケース」
地震の規模：マグニチュード9.0

留意事項

- 本調査は、今後の効果的な防災・減災対策の推進を目的として実施したものであり、次に発生する地震を具体的に想定したものではない。また、対象とした地震以外の地震が発生する可能性もある。
- 本調査は、過去の地震における被害結果等を元に統計的な手法を用いて予測したものであり、個々の被害想定についても、調査結果の通りに起こるとは限らない。

地震被害想定予測結果

■想定震度分布図



■主な被害想定結果のまとめ

〔被害が最大となる冬期・夕方（18時）の災害発生を想定〕

項目		想定濃尾地震	南海トラフ巨大地震
建物被害			
揺れ・液状化による	全壊棟数（率）	2,673棟（5.1%）	143棟（0.3%）
	半壊棟数（率）	8,609棟（16.3%）	1,481棟（2.8%）
がけ崩れによる	全壊棟数	3棟	1棟
	半壊棟数	6棟	3棟
火災による焼失棟数（率）		271棟（0.5%）	0棟（0%）

項目		想定濃尾地震	南海トラフ巨大地震
人的被害			
死者	建物被害による	131人	6人
	火災による	43人	0人
	がけ崩れによる	0人	0人
負傷者（うち重傷者）	建物被害による	1,059人（140人）	163人（7人）
	火災による	23人（17人）	0人（0人）
	がけ崩れによる	0人（0人）	0人（0人）
避難人口 ※1 ※2			
地震発生1日後	避難所避難者	6,517人	499人
	避難所外避難者	4,345人	333人
	合計	10,862人	832人
地震発生1週間後	避難所避難者	19,343人	10,431人
	避難所外避難者	19,343人	10,431人
	合計	38,685人	20,863人
地震発生1ヶ月後	避難所避難者	9,638人	3,260人
	避難所外避難者	22,488人	7,607人
	合計	32,126人	10,867人
ライフライン・交通施設被害			
上水道の被害箇所数		843箇所	333箇所
下水道の被害延長		24.9km	12.0km
緊急輸送道路の被害箇所数		7.2箇所	5.5箇所
帰宅困難者			
小牧市内に通勤・通学する他の市町村の滞留帰宅困難者		1,140人～1,385人	
他の市町村に通勤・通学する小牧市民の帰宅困難者		1,297人～1,361人	

※1 小数点以下を四捨五入しているため、各項目の合計値と合計欄の値が整合しないことがある。

※2 避難所避難者：家屋の倒壊、焼失及び断水等により避難所に避難する人
避難所外避難者：親族宅などに避難する人

被害想定結果を踏まえた防災対策

【建物被害対策】

◆建物の耐震化を推進する。

【人的被害・避難者対策】

◆家具の転倒防止策の周知・啓発を図る。

◆自助・共助での備蓄を推進する。